

## 1. 活動報告（事務局 記）

ー6月1日～3日 二俣瀬小学校低学年のビオトープ学習  
会としてのご案内はしておりません

ー6月6日（日）ビオトープも維持活動が月一回となり草が伸びており、夜ホタルの鑑賞にも足元に迷惑をおかけしておりましたが、当分の間問題なく散策できるよう草刈整備をしました。またフジときららネットのこどもエコクラブの吉富さん他二名の作業奉仕をいただき、蓮田の外来種や田んぼの藻草採り等、エコアップもしました。参加者は10名と作業奉仕3名計13名でした。

ー6月12日（土）福川こどもクラブ34名、スタッフ16名保護者3名総計53名の御一行がビオトープでの自然観察会（特に水棲生物の採集と集計）を行われました。「つくる会」は西原会員、前田会員、北村会員、事務局が対応致し、ビオトープの活動に入った動機と活動の楽しさを各自がお話ししました。

ー6月19日（土）【大人の観察会】“昆虫”を行いました。  
会員19名他工藤さんのお子さん2名の参加でした。管会員・松原会員指導の下、ビオトープから須賀河内川上流に向かって昭和山遊ロード天つつみまで足をのばし、トンボ、蝶、水中昆虫やその他、多種の昆虫を探しました。又昆虫だけでなく貴重な植物も見つけにぎやかに観察会が出来ました。

ー6月20日（日）ネイチャーゲームの会の方々スタッフ子ども合わせ57名が活動に、ビオトープの場所を活用されました。会としての案内はしておりません、また直接関係ありませんが大型車による市道山側水路に土砂が溝を防いでいたため修復しておきました。

## 2. 今後の予定（事務局 記）

### ◎ 見学者

ー7月17日 フジときららネットのこどもエコクラブ一行様

### ◎ 行事

ー7月13日（火）中国電力(株)須賀河内川草刈ボランティア活動

会から管、金子、渡辺、原田、関根が草刈機参加予定

ー7月 3日（土）維持活動（特に草刈とエコアップ）

ー7月17日（土）観察会（田んぼの生き物）

※フジときららネットこどもエコクラブと一緒に勉強会をして昼は楽しい納涼会です。

## 3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

今月はありません。

#### 4. 会員の声 「ビオトープのホタル観賞」 ( 田村 勝芳 記 )

原田さんのメール情報でホタルの乱舞が見られるとのことで近所の友人夫妻と共に6月3日夜ビオトープに行きホタル観賞をして来ました。午後8時はまだ薄明かりがさしてホタルの姿は見えず奥にある東屋の所まで進むと飛び交う姿が見られるようになりました。須賀河内川から飛び立ったホタルがなんとも言えない風情です。暗闇の中でホタルの乱舞が始まったのは8時半過ぎ水車の付近ではホタルが体に止まって一緒に歩いてくれました。

途中で原田さんのグループや関根先生夫妻にも出会いました。市道に出ると須賀河内川の水路にはホタルの乱舞が始まり見事な眺めです。ビオトープ側の水路でも100匹以上のホタルが舞い楽しませてくれました。田んぼの中の蛙も大声で鳴き初夏の一夜を楽しませて呉れました。当日の状況を友人が川柳にして投稿した作品が6月16日の朝日新聞文芸欄柳壇に掲載されたので紹介しておきます。

恋蛍 やきもち蛙 囃したて 宇部市 前野満夫

ホタル観賞の楽しい思いをこめた作品です。

#### 5. 大人の観察会 昆虫

6月19日 土曜日 9時～11時30分 晴 参加者19+2名 ( 管 哲郎 記 )

あいにくの曇り空でしたが「初夏の昆虫」をテーマに半日ビオトープ及びその周辺の観察を楽しみました。担当は松原吉雄氏(蝶)管哲郎氏(トンボ、その他)にお願いしました。気温は十分で良かったのですが、青空が見えないため蝶の姿が少なかったのが残念でした。甲虫類、バッタ類、カメムシ類などの専門家がおらずチョウ、トンボ以外は正確さに欠けましたが、ビオトープの中ではトンボが主でありそれなりに楽しまれたようです。

最高気温も28℃～30℃、湿度も大変高く蒸し暑い中、昭和山近くまで皆、汗だくになりながら頑張って歩きました。登山中にネジキやヤマボウシの真っ白な花が蒸し暑さを忘れさせてくれました。

小さな湿地に昨年までハッチョウトンボがいましたが今年はまだ見られませんが、ムカシヤンマの姿や羽化殻も見つかりませんでした、絶滅したのかもしれない。

須賀河内川の中流で絶滅危惧種のゲンバイトンボの羽化直後個体を2～3頭確認し、成虫もたくさん見られました、また会員の工藤航平君(小5)が支流でコヤマトンボの羽化殻を1個採集するなどすばらしい実績も上がりました。

ビオトープの池に帰ってきたのは11時すぎ、池の調査は十分にできないまま本日の観察会を終えました。途中、大きなシマヘビ2頭に会ったり、オオスズメバチにであったり危険な体験もありましたが全員事故も無く終了し安心しました。皆さんお疲れ様でした!

<本日の観察結果>

##### トンボ類

キイトンボ、ベニイトンボ、クロイトンボ、ムスジイトンボ、モノサシトンボ、ゲンバイトンボ、ニホンカワトンボ、アサヒナカワトンボ、ヤマサナエ、タバサナエ、ギンヤンマ、クロスジギンヤンマ、ハラビロトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、コオニヤンマ、マユタテアカネ、リスアカネ、コシアキトンボ、コヤマトンボ羽化殻、マルタンヤンマ羽化殻、クロスジギンヤンマ羽化殻。

##### チョウ類

モンキアゲハ、オオチャバネセセリ、キマダラセセリ、キタキチョウ、モンシロチョウ、ベニシジミ夏型、ウラナミジャノメ、ムラサキシジミ、ヒメジャノメ

##### 蛾類

ヒョウモンエダシャク、キハダカノコ、ホウジャクの仲間

##### バッタ類

トノサマバッタ、クサキリの仲間、ヒシバッタの仲間、

##### その他の類

キリウジガガンボ、ガガンボの仲間、オオスズメバチ、ハナバチの仲間、ゴミムシの仲間、カゲロウの仲間

## 6. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) (管 哲郎 記)

### (25) アオサナエ (サナエトンボ科) *Nihonogomphus viridis* Oguma

なんといっても「緑色に黒」の模様が特徴の美しいトンボ、こんなトンボがいるのかと感動してしまいます。5～6月に多く見られます、清流を好み丘陵地や低山地を流れる河川の中流域に見られますが、ときには支流の小さな流れにも見られます。

厚東川にも本種が見られますし、ビオトープを流れる須賀河内川で雌(♀)を確認しています。成熟した♂は岸边ちかくの流れの中の石の上などに縄張りを持ち、近寄ってくる♂と飛び立って争う姿が見られますが、再び舞い戻りもとの位置に止まります。♀は早朝や夕方の産卵時以外は支流を遡り川沿いの道路際や木の枝などに潜んでおり、探すのは大変難しく♀に出会えるのは幸運といえるかもしれません。

日本特産種で本州、四国、九州に生息します、東北、中部の山間地方は産地が限られるようです。中国地方では広範囲に見られますがあまり数は多くないようで、県内でもやはり多くは見られなくなっています。

県外の多産地(島根県等)に行けば羽化などが観察できますが、県内ではまだ羽化を見ることができていません。羽化殻さえ採集できておらず、これからの課題です。



流れの中流域



岩の上で縄張りを張る♂



アオサナエ♂



アオサナエ♀

## 7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

再加入会員のお知らせ

伊原邦治 (イハラクニハル) 会員 4年前勤務の都合休会

住所 山陽小野田市西高泊

連絡 tel 83-8181 他メーリングリストに再登録しました。

## 8. 編集後記

ビオトープも11年目に入り特に気づいたのが、水棲昆虫および魚の種類、量が激減しました。加えて植生で希少価値の植物が繁茂し、外来種野草も増えエコアップにたくさんの時間を必要と成ってきました。活動の中で何となく子どものためと思ってメダカや水中昆虫を採集させていますが元に戻すときは息も絶え絶えで有り、これらがメダカはともかくゲンゴロウ、水カマキリ等が最近見受けられなくなった原因の一つではなかろうか?と思われてなりません。一般見学者に対してもできるだけそっとしておくよう指導すべきではないでしょうか? 大人の我々も!

(原田 満洲夫 記)

今年は子供たちの観察隊はなく、大人の会員のための観察会を行なっているが、皆さん童心に帰って熱心にそれぞれ楽しんでおられる。改めてビオトープの生き物の豊さを感じられたと思います。観察会の日に比べて維持活動の日の参加が少ないのではと感じているのは私だけではないと思います。この豊かな生態系を維持しているのは、エコアップなどの日頃の維持活動がそれを支えていることは事実です。観察会は楽しいし、維持活動は辛いかもしれませんが、ビオトープの素晴らしさを守っているのは、やはり維持活動です。ここは皆さんもう少し頑張りましょう!

(西原 一誠 記)